

# 平成 29 年度 盲ろう者の自立プログラム開発事業 報告書

特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会



WAM助成

平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

## 目次

第1部	聞き取り調査	P2
1	目的	
2	調査表：盲ろう者	
3	調査表：家族	
第2部	訓練試行プログラム	P11
1	ブレイルセンスグループ訓練	
2	パソコン	
3	パソコン	
4	レンジ調理	
5	レンジ調理	
6	調理に関するアンケート	
7	薬の管理	
第3部	支援者学習会	P17
1	ブレイルセンス	
2	タブレット	
3	点字触読	
4	ロービジョン・歩行訓練	
5	生活訓練の支援1・2	
第4部	就労現場視察報告	P20

## 第1部 盲ろう者への聞き取り調査

### 1 目的

「生活の質を向上させるために必要なこと、望んでいる生活」を聞き取り、盲ろう者に必要な生活訓練について考察する。

### 2 調査：盲ろう 13人

問1 アンケートはどなたがお答えになっていますか？

- 1 本人
- 2 本人の意見を聞いて代筆
- 3 本人の意向を汲み取って本人以外が記入  
記入者（                      ） ご関係（                      ）

回答

本人 13人

問2 あなたの年齢

（        ）歳

回答

40代 4人  
50代 3人  
60代 4人  
80代 2人

問3 性別（どちらかに○）

- 1 男性
- 2 女性

回答

男性 4人  
女性 9人

問4 お住まいの環境について（いずれかに○）

- 1 自分や家族の持ち家（分譲マンションを含む）
- 2 民間賃貸住宅（賃貸アパート・マンション等）
- 3 公営住宅（県営住宅・市営住宅等）

回答

自分や家族の持ち家 10人  
民間賃貸住宅 1人  
公営住宅 2人

問5 一緒にお住まいの家族について（複数可）

- 1 夫婦
- 2 子ども
- 3 父
- 4 母

- 5 その他
- 6 一人暮らし

回答

- 一人暮らし 4人
- 両親 2人
- 母 3人
- 夫婦 1人
- 夫婦・子ども 3人

問6 障害について

- 1 視覚障害 ( ) 級
- 2 聴覚障害 ( ) 級
- 3 その他の障害 ( ) ご記入ください

回答

- 視覚障害
  - 1級 6人
  - 2級 6人
  - 3級 1人
- 聴覚障害
  - 1級 5人
  - 2級 4人
  - 4級 1人
  - 6級 3人
- 肢体障害
  - 6級 1人

問7 相手に伝える方法について (複数可)

- 1 音声 (発話)
- 2 手話
- 3 指文字
- 4 文字 (筆談・空書き・手のひら書き)
- 5 その他 ( ) ご記入ください

回答

- 音声 8人
- 手話 10人
- 指文字 8人
- 文字 6人
- メール 2人

問8 相手から受け取る方法について (複数可)

- 1 音声 (聴覚)
- 2 手話を見る
- 3 手話を触る
- 4 指文字を見る

- 5 指文字を触る
- 6 手のひらに文字を書く
- 7 筆記
- 8 点字
- 9 指点字
- 10 その他 ( ) ご記入ください

回答

音声	5人
手話を見る	2人
手話を触る	8人
指文字を見る	2人
指文字を触る	7人
手書き	10人
筆記	8人
点字	2人
指点字	4人

問9 目の障害について

- ・障害が今も進行していますか
- ・視力の状態について

回答

網膜色素変性症	9人
緑内障	2人
先天性	1人

\*先天性以外の方は、障害が進行している。

問10 耳の障害について

- ・障害が今も進行していますか
- ・聴力の状態について

回答

先天性ろう	7人
感音性難聴	6人 (1人は全ろう。聴力が残っている5人は聴力の低下が進行)

問11 調理担当について

- 1 家族
- 2 ヘルパー
- 3 家族やヘルパーの調理を時々手伝う
- 4 全て自身で行う
- 5 外食
- 6 お弁当
- 7 その他 ( )

回答

家族	6人
ヘルパー	1人

家族と一緒に作る 2人  
すべて自分で 3人  
お弁当 1人

問12 ご自身でできること

- 1 お湯をわかす
- 2 電子レンジを使う
- 3 ご飯を炊く
- 4 調理：
- 5 その他（ ）

回答

なんでもできる 6人  
簡単な料理ならできる 6人  
お湯をわかすのみ 1人（家族と生活しており、新しい機器に変わると操作がわからない。）

問13 今後調理をやってみたいと思いますか？

- 1 やってみたい
- 2 思わない

理由（ ）

回答

やってみたい 10人：調理をしている4人 調理をしていない6人  
思わない 3人：興味がない 怖い 訓練は不要（調理をしている）

問14 食料の買い物担当について

- 1 自身で買い物（週に何日？ \_\_日）
- 2 ヘルパーなどと一緒に買い物（週に何日？ \_\_日）
- 3 家族が行う
- 4 ヘルパーが行う（週に何日？ \_\_日）
- 5 その他（ ）

回答

家族 7人  
自身で 2人  
家族と一緒に 1人  
ヘルパーと一緒に 1人  
慣れた所は一人で、その他はヘルパーと一緒に 2人

問15 その他の買物（衣服・日用品など）

- 1 自身で買い物（週に何日？ \_\_日）
- 2 ヘルパーなどと一緒に買い物（週に何日？ \_\_日）
- 3 家族が行う
- 4 ヘルパーが行う（週に何日？ \_\_日）
- 5 その他（ ）

回答：自身の衣服（日用品は、食料の買物と同じ回答）

ヘルパーと一緒に 8人  
家族と一緒に 3人  
自身で 2人

問16 買物についての希望

回答

- ・ 自身で買い物をしているが、品物を選ぶときに困るのでヘルパーを利用したい
- ・ 店内の改装はやめてほしい。店員を増やしてほしい
- ・ 好きな物を買いたい但我慢することもある
- ・ 「何がほしい」ではなく、季節物、珍しい物など情報がほしい

問17 洗濯担当について

- 1 自身で：洗濯機に入れる 干す 取り入れ たたむ
- 2 家族
- 3 ヘルパー
- 4 その他 ( )

回答

自身で 11人  
家族 2人

問18 洗濯についての希望

回答

- ・ 家族と一緒になので新しい機器の操作がわからない。自分専用を買って、自分でやりたい
- ・ 家族の物と一緒にするとわからなくなるので、自分のものだけ洗濯する
- ・ 標準はわかるが、毛布・手洗いコースが選択できない。ボタンの工夫をしてほしい

問19 衣類整理

- 1 自身で
- 2 家族
- 3 ヘルパー
- 4 その他 ( )

回答

自身で 13人  
衣替えだけヘルパーに手伝ってもらおう 3人

問20 衣類整理の希望

回答

- ・ 家族は自分のことは自分でやってほしい
- ・ しみ、よごれなどは家族や通訳・介助員に確認してもらおう
- ・ 衣替えを手伝ってほしい。

問21 その他の家事

- 1 掃除

回答

担当している 8人

2 金銭管理

自身で 10人

家族 3人

3 セルフケア：薬管理など

自身で 13人

問 22 歩行訓練について

1 経験がある

2 経験はないが受けたい

3 必要ない

4 その他 ( )

理由 ( )

回答

経験がある 9人

経験はないが受けたい 2人

必要ない 2人

問 23 ご自宅での過ごし方

回答

- ・ のんびり過ごす
- ・ 毎日外出するので寝るだけ。音楽を聞く。ラジオは早くて聞き取れない
- ・ 午前中は、家事をしたり、団地の階段を上り下りし体を動かす。午後からは、ラジオや録音テープを聞く
- ・ 家事をこなす。運動機器や体操をする。棒編をする。
- ・ 野球が好き。新聞テレビを見る。
- ・ タブレットで情報収集
- ・ 点字の本を読む
- ・ 電話、メール、テレビ。手芸、折り紙。
- ・ 音楽が好き。テレビ、CD を聞く。録音図書を聞く。
- ・ 拡大器で資料を読む。パソコン。大型テレビで字幕を止めながら見る。家の周りの散歩
- ・ 折紙。本・テレビは見にくくなったが、見ている。酒を飲む。
- ・ さおり織、本を読む、字幕付きテレビを見る。
- ・ パソコン、ブレイルセンス、折り紙

問 24 ご家族とお過ごしの方に

・ 今後一人暮らしをしてみたいか

・ 不安はあるか

回答：10人

一人暮らししたい 3人

不安 2人

想像できない 2人



子供の障害があるので一人にできない 1人  
一人になったらぼける 1人

問 25 お一人暮らしの方に

- ・ 今後も一人暮らしを続けたいか
- ・ 不安はあるか

回答：4人

続けたい 4人

問 26 今後やってみたいこと

回答

- ・ なにもない
- ・ 草履作り、ダンス、おでかけ
- ・ 音声パソコン使いこなしたい、
- ・ ひとりで旅行、マラソン、ハイキング
- ・ 指点字
- ・ ガーデニング、ランチの会、知らないことを教えてほしい。
- ・ パソコン、手話、指点字でコミをとりたい
- ・ 結婚したい、点字を読みたい
- ・ やってみたいことは実行している
- ・ 結婚したい、ブレイルセンス
- ・ ひとりでなんでもやってみたい。料理。色んな情報を紹介してほしい。パソコン、点字。一人になっても地域で暮らし続けたい。地域に触手話ができる人がいる。私が指導して支援者を育てたい。

【考察】

- ・ ほとんどの方は障害が進行しており、不安感を抱えている。不安感を吐き出すように長時間語る方も多くおられた。お話をされる中で、ご自身で自分の不安感を整理されていた。お話をする機会を持ち、障害の進行に合わせて、何を訓練し、どう暮らしていくかを一緒に考えることが大切であると感じた。
- ・ 先天性ろうの盲ろう者は、手書きなどさまざまな工夫をして周囲の方とコミを取っている。逆に途中で聞こえにくくなった方は音声に頼っている。
- ・ 多くの盲ろう者は工夫をしながら、生活している。衣類の整理は全員が自身で行っている。家族と同居している方のほうが、生活機器の操作がわからないなどの理由で使えないことがわかった。
- ・ 現在一人暮らしの方は、このまま続けたい。
- ・ 盲ろう者の自立の度合いは、障害の重さではなく、生活環境に影響される。多くの盲ろう者がより自立したい気持ちをもっている。

### 3 調査：家族 5人

問1 ご本人（盲ろう者）と同居していますか？

- 1 同居
- 2 ご本人は一人で住んでいる
- 3 ご本人は別の家族と住んでいる
- 4 その他（ ）

回答

同居 3人  
ご本人は別の家族と住んでいる 1人

問2 あなたの年齢

（ ）歳

回答

40代 2人  
50代 1人  
70代 1人  
80代 1人

問3 性別（どちらかに○）

- 1 男性
- 2 女性

回答

男性 1人  
女性 4人

問4 お住まいの環境について（いずれかに○）

- 1 自分や家族の持ち家（分譲マンションを含む）
- 2 民間賃貸住宅（賃貸アパート・マンション等）
- 3 公営住宅（県営住宅・市営住宅等）

回答

持ち家 5人

問5 障害について

- 1 視覚障害（ ）級
- 2 聴覚障害（ ）級
- 3 その他の障害（ ）
- 4 障害無

回答

障害無 5人

問6 ご本人（盲ろう者）との関係

- 1 夫婦
- 2 子ども
- 3 父

- 4 母
- 5 兄弟
- 6 その他 ( )

回答

父 1人  
母 3人  
兄弟 1人

問7 ご本人(盲ろう者)とのお話しの方法について

- 1 十分に会話ができる
- 2 簡単な会話ができる
- 3 あまり会話はできない
- 4 その他 ( )

回答

簡単な会話 2人  
あまりできない 3人

問8 ご本人(盲ろう者)が担っている家事について、自由にご記入ください(例:自身が使った食器を洗う。タオルをたたむ)

回答

- ・ パンを焼く。コーヒーを作る。家族の食器を洗う。洗濯をたたんでしまう。部屋の掃除。階段のふき掃除。
- ・ 食器洗い。ゴミの整理。洗濯。
- ・ 日常の家事
- ・ 配膳、服を洗濯カゴに入れる、靴を揃える
- ・ 配膳、靴を揃える、タオルをたたむ、野菜を切る

問9 ご本人(盲ろう者)との生活の中で不安に思っている事を自由にご記入ください。

回答

- ・ 本人が、地域での生活を望んでいるが、家屋の維持や税金の負担が不安。災害時の安否確認について市役所に聞き、本人は安心してた。
- ・ 自分が亡き後のことが常に心配。本人は施設に入りたくないと言っている。
- ・ 私たちがいなくなった後、施設入所しかない。見えていた時代のことしか、分からないので今のことを説明が難しい。家族のいう事は聞かない、思い込んで融通が聞かない。体調に波があるので不安。
- ・ 親亡き後のことが不安、兄弟には負担をかけたくない。コミュニケーションの幅を広げたい。余暇の充実、好きなことを増やしたい。
- ・ まだまだ本人とのコミュニケーションがとりにくい。じぶんでできることが少ない。楽しめる事、やりたいと言えることが少ない。卒業後の進路、親亡き後の安心して暮らせる場所が現状考えられない。

問10 福祉制度や地域での支援について望まれることを自由にご記入ください。

回答

- ・ 年金では生活費がまかなえないと思う。銀行などの出金が不安。災害時のことが不安。自治会での付き合いが不安。健康維持の情報確立が不安。
- ・ 市役所に盲ろう専門の通訳者を早急においてほしい。
- ・ 役所に行かないとわからないことが多い。こんなサービスがあるという案内がない。役所にいけない人はずっと家にひきこもっているのか？個人情報で教えられないと言われた。情報・サービスを教えてほしい。
- ・ 地域になじめるようなグループホームがほしい。盲ろうに対する理解や支援方法を深めてほしい。
- ・ 人工内耳の助成がほしい。今は修理・買い替えを親が負担しているが、将来本人が使い続けていくことを考えると助成の対象にしてほしい。
- ・ 児童デイを利用しているが、理解の深まり・充実が期待できない。盲ろう児が理解され、安心して過ごせる生活の場と事業所が身近にほしい。成長と共に地域との接点が少なくなっている。何か余暇活動につながることに参加できればと思う。将来、本人のできることで地域の役にたてるような「ありがとう」と言ってもらえるような場のある暮らしができればと思う。

#### 【考察】

- ・ 多くの家族が盲ろう者とコミュニケーションが十分にできない。
- ・ 親亡き後が心配。地域に盲ろう者支援が整っていない。
- ・ 市役所など盲ろう制度について周知されていない。
- ・ 家族は、施設で暮らしてほしいと考えている。一人で暮らしていくことに家族が不安をもっている。盲ろう者が地域で暮らすことについて、家族も含めて考えていくことが必要であると感じた。

## 第2部 訓練試行プログラム

### 1 ブレイルセンスグループ訓練

【実施日・時間】 平成29年5月10日 17日 24日 13:00～15:00

【実施場所】 ひょうご盲ろう者支援センター

【対象者】 弱視ろう3名

盲ろう者個々の障害や思いの違いが大きく集団での訓練は大変困難であることが改めて思い知らされた。例えば、メールの送受信という目標が同じで、そこに至る過程が同じでも

それぞれの特性に合わせたペースが必要である。同じ時間と空間で学習することになっても

個別訓練の形でないと待ち時間が長くなり、集中力が落ちていくので効率が悪い。また、課題を達成しても次の課題まで時間が空くとモチベーションも落ちてしまうと思う。

ただ、訓練そのものは個別のものでも、複数人が一緒に学習することによって、情報交換や励ましあったり、意欲を高める効果は望めるので、ブレイルセンスを学習する人が気軽におしゃべりする時間があってもいいと思う。

訓練の時間帯は、計画通りにスムーズに進んだと思うが、月に2回程度機器に触れるだけの期間が続いたので、訓練時間の大半が前回の復習という日が多かった。何度も同じことを繰り返すことは基本操作の覚えることには役立ったが、訓練としては間が空きすぎるので、頻繁に機器に触れられる環境作りが必要であると思う。

### 2 パソコン

【実施日・時間】 平成29年 7月13日 9月7日 10月5日 11月16日

【実施場所】 淡路聴覚者障害センター

【対象者】 1名

当初から地元での支援を受けられるように、地元の支援者にも盲ろう通訳として入ってもらった。キーボードや画面の状況を具体的にイメージ出来る様に伝えられるかが、盲ろう者のサポートにとって一番の課題であることがよくわかった。聞き取り調査も含め、手話表現、実際に触ってもらい、トラブルが起こったときの対応方法など事前準備を綿密にしておくことがより重要になる。今後は、地元の支援者につないで、どのように引き継ぎ、長期的にどう見守っていくかが課題。

### 3 ブレイルセンス：ピア講師

【実施日・時間】 11月2日（木） 10:00～12:00  
12月7日（木） 10:00～12:00  
12月25日（月） 10:00～12:00

【実施場所】 ひょうご盲ろう者支援センター

#### 【目的】

- ・ 講師の立場でなく同じ障害者であるため学習の大変さが理解でき寄り添いながら共に学ぶ。
- ・ 個々に合わせた進め方でおこなうことにより理解出来た時の喜びを共感しもっと学びたいという気持ちを持つ。

#### 【内容】

受講者：盲ろう者3名（各日1名）

講義、①点字触独の必要性

②ブレイルセンス基本操作

キー配列 電源 ON・OFF トップメニューの確認

③電子メール

メール受信 本文を読む 返信する

差出人のアドレスを登録 新規メール作成、送信

#### 【考察】

盲ろう者のアンケートより

- ・ スムーズに一つ一つ丁寧にやってくれた。分かりやすく質問にもすぐに答えてくれたので理解出来た。もっと時間があればインターネットやワード作成をやってみたい。
- ・ 進め方も内容もよかった。アドレス登録や天気・ニュースの情報、インターネットで交通・旅行など検索も学びたいので次回学習会をしてほしい。
- ・ 自分のペースにあわせてゆっくり進めてくれてよかった。アドレス登録を丁寧に教えてくれた。一人でも出来るようになりアドレスを出してメールを送る方法を覚えたい。

ピア講師より

- ・ それぞれのレベルに合わせた進め方に工夫が必要だった。個々の希望に沿って楽しく学ぶこと。私自身も新たな発見があり勉強になった。

受講生に合わせた指導や説明、操作方法の進め方を打ち合わせで確認した。講義中も受講生の理解力に合わせてもっと勉強したいと興味を持ってもらえるように進めることが出来た。今後盲ろう者にとって身近な機器となるのでピア講師の存在が自分も出来るという励みになればいいと思う。

#### 4 レンジ調理

【実施日・時間】平成29年12月14日（木）10時30分～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【対象者】弱視難聴盲ろう者1名

当日の流れ

1. レンジ調理についての話
2. グッズ紹介（100均レンジ調理グッズ、ジプロップ、
3. レンジ調理の注意

\*レンジ調理

- ①ごはんを炊いてみる
- ②スパゲティを茹でてみる
- ③冷蔵庫の野菜で温野菜、茹で野菜を作る
- ④豚薄切りでゆで豚を作ってみる
- ⑤袋ラーメンをレンジで作ってみる
- ⑥温泉卵を作る

作ったものでのアレンジを考えてみる。

みんなでレンジ調理のアイデアを出し合う。

考察・課題

・100均でたくさんの調理グッズがあることに大変驚いていた。また、レンジ魚が焼けること、難しいと思っていた卵料理ができることが新しい発見であった。

また、1つの食材でいろいろな調理に使いまわしが出来ることも、一人暮らしの盲ろう者さんにとっては、重要な情報である。

見えないから料理ができないと思っていたが、レンジで簡単にできることがご本人にわかり、エンパワメントを高めることができたと考える。今後の支援につなげていきたいと考える。

・支援センターにある、電子レンジを使用したか、当事者の家にあるレンジを使用した方が分かりやすい。（レンジは、ワット数や、機種により微妙に調理時間が違う。）

・今後も、調理できる機会を作ってほしいと要望有、機会をつくる必要と考える。

## 5 レンジ調理

【実施日・時間】平成30年1月11日（木）10時30分～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【対象者】全盲ろう1名 弱視難聴1名

当日の流れ

- ① きゅうりを叩いて漬けよう
- ② レンジでご飯を炊こう
- ③ レトルトを使って  
②で炊いたご飯にレトルトカレー・チーズをかけ  
オーブントースターで焼こう
- ④ オーブントースター  
ア：黒いホイルで焼こう！  
玉ねぎ、トマト、さつまいも、カボチャなど  
イ：ホイル焼き  
肉、魚、野菜の組み合わせは何でもOK
- ⑤ フライパンで作る  
\*蒸し焼きをフライパンでやってみよう
- ⑥ 缶詰を使って  
\*ミートソース缶・ホワイトソース缶・パスタで  
ラザニアを作ろう  
野菜(なす・ズッキーニ・パプリカなど)もOK
- ① その他 卵を使って

## 考察・課題

- ・100均でたくさん調理グッズがあることに大変驚いていた。
- 難しいと思っていた卵料理ができることが新しい発見であった。一人暮らしの盲ろう者さんにとっては、便利なグッズは大切な情報である。
- 見えないから料理ができないと思っていたが、レンジや身近な調理グッズで簡単にできることがご本人にわかり、エンパワメントを高めることができたと考える。
- ・支援センターにある、電子レンジや調理器具を使用したか、当事者の家にあるレンジ、器具を使用した方が分かりやすい。（レンジは、ワット数や、機種により微妙に調理時間が違う。）今後はご本人宅での支援につなげていきたいと考える。
- ・今後も、調理できる機会を作ってほしいと要望有、機会をつくる必要と考える。

## 6 調理に関するアンケート集計

- ・なんでもできる：天ぷら時間をみる。焼き魚：時間と焼け色
- ・お弁当、お湯をわかす、電子レンジ、ご飯炊くのはできる。料理やってみたい。
- ・調理担当は家族。電気ケトルに必要量いれてお湯をわかす。電子レンジ使う、が電子レンジ料理教えてほしい。料理ありたい（娘を見返してやりたい。一旦辞めたことを再開する恐怖がある。お湯をひっくり返して大やけどした経験がある。娘が担当して3年。簡単なことならできるかな。



- ・ 調理担当はヘルパー。野菜不足になるので味噌汁くらい作りたい。一度玉ねぎをきったら、3分の1くらい切り落としてしまい自信がなくなった
- ・ お昼は自分で調理。夜は主人を手伝う。魚を焼く、油料理以外はなんでもできる。引越しをして新しいコンロになってから使えなくなった。調理やりたい。
- ・ 調理は自分、外食昼食はヘルパーと友人。包丁を持つのが怖い（骨粗鬆症で力はいらない）。以前落として、怪我の恐怖があった。柔らかい物は切れる。手でちぎるなどしている。お湯、電子レンジ、ご飯、調理お味噌汁、簡単な調理（包丁は使わない）。調理やりたいと思わない、ゆとりがない。怖い。来週からコープの夕食の宅配を頼む。友の会のランチ会は洗い物だけ担当する予定。
- ・ すべて自分でやる。すべて自分でできる。ガスは手をかざせばわかるが、IHはわからない。鍋を置く位置もわからない。嫁に勧められたが、やめた。以前、今川さんのすすめで知るウォッチを使ったが、いろんな音に反応してしまい、利用をやめた。申請できるから何でも申請して、無駄になる場合もある。
- ・ 魚を焼くのは、最近やめた。調理済みを購入する。油料理もしない。それ以外はなんでもできる。野菜炒め、煮物、味噌汁は作る。お惣菜はからいのでひと手間かける。例えば、きんぴらに茹で白菜をまぜる。サラダに混ぜるなど。要介護2。視覚障害になって10年。一人暮らし25年。家で作らない料理は外で食べる。
- ・ 調理担当は母。電気ポッドが使える。コーヒー、カップラーメンを作る。古い物は使えたが、最新機器は使えない。カップラーメン。調理やってみたい。ヘルパーに任せたくない。簡単なら自分でできる。自分で作って缶ビールをのんびり味わいたい。
- ・ お湯をわかす、電子レンジを使う。細かいメモリは使えない、ご飯を炊く。コップで測る。調理は興味がない。切ることはできる
- ・ 調理自分。味付けがわからないので、薄めに味付けをし家族に手伝ってもらおう。朝昼は自分です。片づけは家族。ご飯は水加減が分からない。調理は炒め物などタイマーを使っている。IHは使いにくい、ガスがいい。今後調理はやってみたい。姫路あいあい会で、1人で調理できるよう企画をして調理教室を3年間していた。調理室と家とは違うので、意味がないと思った。
- ・ 電子レンジ、ご飯特卵焼きできる。調理やりたい。森と一緒に作りたい。
- ・ なんでもする。フライパンは茶色なので材料が見にくい。肉が赤から茶色に変わっているのが見えない。いつ、ひっくり返していいかわからない。魚、肉、焼きなす、焼き芋はロースター焼く。タイマーで使うみりん、酒、大さじを使うのは難しい。胡椒難しい。レトルトはよく使う。調理はやってみたいと思わない。

## 7 薬の管理

【実施日・時間】平成30年2月14日（水）13時～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【対象者】12名

\*レジュメ

1、薬を飲んでいますか？

飲んでいる→何種類

飲んでいない→健康診断を受けているか？

2、薬の保管場所は？

3、薬を間違えない工夫は？

### 考察・課題

- ・盲ろう者、それぞれの保管場所の工夫があり、個々の情報交換ができた。
- ・盲ろう者が持っているグッズを持参してもらった。
- ・保管グッズについては、市販されているグッズは、見える人にはいいが、盲ろう者にとっては使いにくいことも分かった。個人個人の分かりやすい工夫をしていることがわかった。
- ・専門的なことは、医師や薬剤師に相談することをお話しした。
- ・薬の1包化については、病院、クリニックの受信日が違うので、クリニックごとでの1包化になる。ご自身で管理できる人は、薬を出すときに落としたりしたら却って何の薬を落としたのかわからなくなるので1包化しにほうがいいという声もあった。
- ・今後もいろいろなテーマで、情報交換して欲しいとの声が多かった。
- ・当事者同士の情報交換の場が必要であると考えた。

## 第3部 支援者学習会

### 1 ブレイルセンス支援者学習会

【実施日・時間】10月1日（日）10:00～12:00 13:00～15:00

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員6名（午前3名・午後3名）午前と午後は同じ内容

【目的】盲ろう者のブレイルセンス訓練時のサポート及び通訳として基礎知識を学ぶ

【内容】ブレイルセンスの概要・基本操作とメールの送受信体験

受講者：通訳・介助員6名（午前3名・午後3名）午前と午後は同じ内容  
講義、体験実習

#### 1. ブレイルセンスの概要説明

各キーとボタンの説明 指使いについて

#### 2. メインメニューの確認

#### 3. メニュー間の移動、項目間の移動

#### 4. メニューの開始と終了方法

#### 5. メールを受信～本文を読む

#### 6. 受信したメールから引用返信

#### 7. メールボックスについて（inbox outbox, sent, trash の4つがあること）

#### 8. ブレイルセンスのトラブルについて（故障を避けるための取り扱い）

### 【考察】

受講生のアンケートより

- ・何度も繰り返さないと覚えられないが、項目が絞って有るのはよかった。
- ・基本からの指導、説明で理解できた。
- ・パソコンの場合など頭で想像しながらできたので、よくわかった。
- ・継続した講座を希望する。
- ・繰り返し学習したい。

ブレイルセンス訓練を希望する盲ろう者が増加する中、まず基礎知識を学んでもらい、今後の支援者養成にもつなげていきたいと思う。敬遠されがちなIT訓練のサポートではあるが、今回は積極的に参加し、学んでいただけたと思う。ブレイルセンスは、個人として身近にあるものではないので、できる限り機器に触れて体験できるような環境が必要と感じた。

## 2 タブレット支援者学習会

【実施日・時間】10月24日（日）10:00～12:00 13:00～15:00

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員4名

【目的】タブレット端末の盲ろう者が利用しやすい設定を考える

【内容】iPadのアクセシビリティから設定を変更し、画面拡大や色の変更。

VoiceOver やSiri を使った利用方法の体験

講義、実習、盲ろう当事者の話、意見交換

1. iPad 概要説明と基本操作

2. 設定からアクセシビリティに入り、設定を変更してみる

3. 画面設定を変更

白黒反転、グレースケールなど

文字サイズ・文字の太さ・ボタンの変更等

画面の明るさと透明度

4. ズーム機能を使う

3本指のタップ、ドラッグを使って拡大・縮小・パンなどの操作

ショートカットキー（オン・オフの切り替え）の設定

5. Siri を利用する

Siri を呼び出し、リマインダーに予定を入れるなど

6. 福田麻美さんミニ講演（IT 機器利用の遍歴と現在の iPad 利用方法）

実際に iPad を利用しているところを実演 質疑応答

7. VoiceOver の利用

VoiceOver をオンにして、操作方法を体験してみる。

（通常と異なる操作方法の体験）

### 【考察】

受講生のアンケートより

・ iPad についての知識が学べた。

・ 便利な機能がたくさんあって、iPad は賢いと感じた。

・ 福田さんの話や実際使っているところを見ることができたのはよかった。  
もっと他の盲ろう者の使い方も知りたい。

・ iPad について全く知らなかったが、楽しく学べた。

今後パソコン利用にとってかわるかもしれないタブレット端末ではあるが、  
現実に盲ろう者が利用する場合、一般の利用方法とはかなり異なることが多いので、携帯  
ショップ等のスタッフでは対応してもらえないことも多い。

出来ることと出来ないこと、可能なことを見極めることが重要になると思う。

この学習会では、たくさんのお話を短時間で体験してもらった。操作方法は必要に応じて  
後から知識を得ることができるので、どんな操作が必要なのかを学ぶより、何ができるの  
かということを知ってもらうことを重視した。

### 3 点字触読

【実施日・時間】11月3日（金・祝）10時～12時、13時～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員9名

【目的】盲ろう者の点字触読訓練の支援者、通訳・介助員を養成する

【内容】

レジュメ

10時：講師紹介

10時10分～

触読の意義と目的

- a. 触読の意義と目的
- b. 目標値は「本を読むこと」だけではない
- c. 何歳まで学べるか

指導の方法の基礎

指導を始める前に

- a. なぜ1対1での指導なのか
- b. 低めの目標設定
- c. ほめること、それが大切

授業開始

- a. 触知感覚の確認
- b. 「形」と「文字」
- c. 指の動かし方
- d. マス辿り、マス数え
- e. 点の位置は番号でなく「1段目」（2段目・3段目）の左・右
- f. 反復練習、自己練習（宿題）が必須

仁枝様によるデモンストレーション

12時～ 昼食休憩

13時

ペアを組んでの実践練習

ペアを組んで、一人は視覚障害者役、一人は指導者役

向かい合わせになっておこなう、長机準備

まとめ、質疑応答

15時終了

考察・課題

受講者が点字が読めることを体験し、実際どのようによんでいくのかわかった。

講師が、点字ユーザーであり、ピア講師として仕事をしている。実体験者からの指導は、今後、健聴側が盲ろう者への指導時に役立てることができる。指導のポイントを的確に教えてもらいよかったとの声が多かった。褒めることが大事、障害を需要してコミの方法を取得していく、盲ろう者の背景に寄り添った指導が大事であることがわかった。

今後もこのような指導者養成の機会が必要であると考えます。

#### 4 ロービジョン・歩行訓練

【実施日・時間】11月19日（日）10時～12時、13時～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員8名

【目的】盲ろう者の点字触読訓練の支援者、通訳・介助員を養成する

【内容】

午前

皆さんが思うロービジョンには

体験してみましょう（疑似体験キット、白杖を使用）

元町商店街を歩く

午後

ロービジョンケア

DVD

考察・課題

参加者は、盲ろう通訳介助員で、養成講座受講時にロービジョンの体験を経験しているが、以前のことで忘れていた。再度疑似体験することで、見えづらさ、歩きづらさなど、盲ろう者が普段感じていることの一部を気付くことができた。その気づきが、今後の通訳介助のときに役立てばと思う。

今後もこのような体験、学習が必要であると考えた。

【実施日・時間】11月19日（日）10時～12時、13時～15時

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員8名

【目的】盲ろう者の点字触読訓練の支援者、通訳・介助員を養成する

【内容】

#### 5 生活訓練の支援1・2

【実施日・時間】1月28日（日）10:00～12:00 13:00～15:00

【実施場所】ひょうご盲ろう者支援センター

【受講者】通訳・介助員9名

【目的】

- ・ 盲ろう者の生活の質を向上し、毎日の生活を充実するために必要なことについて考える。
- ・ 支援者に求められる技術について考える。

【内容】

講義、受講生同士の意見交換、事例検討

1. 視覚障害者の自立訓練に加えて、盲ろう者の生活訓練は
  - ・ コミュニケーション訓練
  - ・ 聴覚システム活用
  - ・ 社会参加

## 聴覚システム活用

自分に合った補聴器を選び、自分に合った生活スタイル・コミュニケーションに合わせて活用できる。

## 社会参加

社会参加には、自分らしさを出す、やりたいことがみつかるなど、社会参加を通じて、ご自身の力を発揮するきっかけになる。そのことを十分意識して、生活訓練に取り入れる。

### 2. 盲ろう者の状況

通訳・介助員派遣事業の充実で、外出・社会参加の機会が増えた。今後は、盲ろう者が主体的に社会参加していくための支援が必要。

### 3. 生活訓練の状況

全国的に予算化されている地域が少ない。  
ノウハウがない。

### 4. 支援者に求められる技術

訓練の支援方法の技術以外に、リハビリテーションの意味について深く理解することが大切。

## 【考察】

### 受講生のアンケートより

- ・ 事例検討は難しいし、発言する時は不安になるが、いろいろな人の考え方や問題点、考え方のずれに気づくことができる。共感、気持ちを聞くことが改めて初心に戻れた。
- ・ 事例③は、事前に考えた時にすごく悩んだが、学習会で自分の考え方に近かったので、確認でき大変参考になった。自分のサポートに振り返ることも出来てよかった。
- ・ 事例検討で自分の考えや、自分で気づいていなかった意識に気づきました。とても勉強になった。また、他の方々の意見も聞け、頭をやわらかくして、これからは盲ろうの方々と活動、サポートが出来ればと思った。
- ・ 支援者の意識の再確認ができた。日常に慣れつい見落とししてしまいがちになる、自分の物差しで見えてしまいそうになる。
- ・ 経験が浅く、認識も足りない中での学習だったが、今後、今日学んだことを活かしていけると思うので、盲ろう者、支援者、両方の立場について考えることができ良かった。
- ・ 難しい内容だけれども、いつも気に留めないといけない、しかし限界がある。柔らかい頭を持つことが大切とわかった。価値観の違い、確かにそう思います。私も自分は他の人と違う、変わっているところがあると思いながら、それを（自分の常識）を押しつけて話していることがあるのではないかと、改めて思い返しました。
- ・ 絶対的な正解のない支援について、多くの意見や今まで気づくことのできなかつた視点等、話していただけて参考になりました。
- ・ このような学習会を、毎年開催してほしい。

今回は、講師・スタッフとしてではなく、同じ立場で意見交換をした。価値観の違いを尊重し、1人1人の生き方に共感することが、基本であることを確認できた。

## 第4部 就労現場視察報告

報告者：中村（視察：平井 計2名）

日時：平成29年8月3日（木）10:00～15:00

場所：京都府城陽市 京都市聴覚言語障害センター「サンサン カフェ」

対象者：京都ほほえみの会 H氏(全盲ろう男性) W氏(弱視ろう女性)

職場：シェフ(男性職員)、パート女性、難聴(知的障害)女性、ろう女性(アイロン担当)

形態：カフェ H氏 週3日勤務 10:00～12:00、13:00～15:00

W氏 週3日勤務 10:00～12:00

### 内容：H氏

作業①：洗濯物(従業者のコック服、清掃作業副等)干しをする。干し方(例：エプロンの紐が地面につかないようにしたり、ハンガーの扱いなど本人にとって最善の方法を見つけたとのこと。

作業②コック服、帽子に着替え調理をする。作業の度に、手洗い消毒をして衛生にはかなり神経を使っていた。レタスの芯とやわらかい部分を分ける。それぞれボウルに入れ、芯をゴミ箱へ。

作業②まな板の下にキッチンペーパーを敷き滑り止めの工夫。玉ねぎの皮むき→ゴミ捨て。玉ねぎを切りアメ色になるまで炒める(1kgが200gになるまで)

### 作業③洗い物

内容：W氏：コック服、帽子に着替え消毒。

作業①大きな目盛のついたハカリでコーヒー豆を1人分と2人分、それぞれタッパー容器に入れる。パットにタッパー容器を並べセット。

作業②：じゃが芋(支援者が洗ったもの)とピーラーをボウルに入れたものを手渡され剥く。サイコロ状に切る。

作業③キッシュの中身をパイシートに箸で入れる。

所感：お二人とも作業動線に無駄がない。ゴミ捨てはその都度行い、次の作業へ進むので迷わなくて良い。油を使うのは危険なので職員が行うが、キッチンの形状はしっかり頭にあるようで危険な動きはなかった。人とぶつかり物を落としても『失敗してもOK!』と職員の掛け声で救われる。コミュニケーション(触手話、弱視手話)も万全である。生き生きと仕事をされていて、充実した時間を過ごされているのは、お二人の表情から窺える。職場もコンパクトながら充実した設備であった。物、人の環境としても素晴らしい。盲ろう者ができることを考えがちだが、盲ろうだからこそ作業に集中できるのではないだろうか。開業して4年、試行錯誤の末に働きやすい快適な環境を作り上げた努力に敬意を払いたい。今回の視察は今後の取組みのために大変参考になった。



報告者：森(視察：平井 計2名)

日時：平成29年7月23日(月)10:00~15:00

場所：社会福祉法人光道園

鯖江事業所(福井県鯖江市和田町9-1-1)

①障がい者支援施設 ライトレーニングセンター

②障がい者支援施設 ライトワークセンター

光道園朝日事業所(福井県丹生郡越前町朝日22-7-1)

①障がい者支援施設 ライトホープセンター

### 施設の概要：

入所者388人。(1/3は地域からの入所、他全国各地)

外出支援：263件(H26年度)、538件(H27年度)増加傾向

盲ろう派遣利用は土日・平日夜のみ可(参考：淡路ふくろうは1日OK)

### 内容：

#### ☆ライトレーニングセンター

- ・生活介護(障害程度区分5~6)盲ろう者+肢体の重複障害者の入所
- ・意思疎通支援できるようにする、自己決定を大切にしている。
- ・居室においては、空調など生活しやすさの配慮あり。簡単な手洗いスペース付。口腔ケアは歯科衛生士にきてもらい2回/月
- ・点字室があり、そこでブレイルセンスにより資料をよんだり、作製したりしている。ブレイルセンスの指導をうける(東京大学の大河内さんの指導をもらったことあり)
- ・居室にいるときなども、時間があれば訓練できるような場所を廊下につくってある。ある92歳女性(入所46年)、棒さしや、型合わせなどをする。待ちがってもいい、間違ったから、学習し、またコミュニケーションの始まりだと考えて支援している。
- ・居室扉に入所者の写真、コミ方法、などをはってある。
- ・全国盲ろう者大会参加する方もいるので、福井から花巻までの交通方法、距離感など、立体的に表示してあった。
- ・行動に問題ある方に関しては、安全性のため居室に外から鍵をかける場合あるとのこと。

修学経験の無い方に、文字を書いたら立体的にうきでる用紙レーザーライター(カプセルペーパー)の用紙を使い名前などを訓練している。部屋に入らせて話をしたが、名前を何度も確認しとても喜んでくれた。コミの大切さをとても実感した。

- ・入浴施設も機械かされ、スタッフの負担軽減に配慮されていた。
- ・自動販売機に点字シール貼り付けがあり、触ってわかるように
- ・廊下に交差する部分は色を変えてわかるような工夫があった。

#### ☆ライトワークセンター

- ・生活介護、就労支援B型(障害程度区分3~4)
- ・生産活動：陶芸商品製作販売、紙箱組立加工、園芸用品組立加工などの委託作業(地域のお土産販売会社(羽二重餅)からの委託、陶芸は郵政事業会社からの委託や、干支の置物、食品配達会社から保冷シートの清拭)
- ・箱折りは、盲ろう者のかたは集中して仕事をするので、他の方に比べ仕事が早い。スタッフは、資材の提供などの支援のみで、当事者のペースにあわせて仕事ができる。
- ・陶芸は、型注入法。注入は職員スタッフhが担当、入所者は型から外したもののやすりかけなどを担当。全行程をしてもらうのではなく、効率やできる仕事を考慮して担当してもらう。

- ・園芸用品組み立てでは、作業しやすい道具の工夫、開発がみられた。
- ・食事は何種類もあり、そこから自分の好きなものを選ぶ方法
- ・リビング食事会として、エリアごとの少人数で、調理準備から片付けまで全部を入所者たちで一緒にする。入所者間の結束を固め交流に役立っているらしい。
- ・喫煙可（指定場所のみ）
- ・交流：盲ろう者 A さん男性（触手話）：箱折り作業。県外からの入所。バイク、自動車にとっても興味があり、視力が落ち、免許を返納したことがとても苦しかったと話してくれた、神戸に川崎重工があり、バイクのエンジンなどを製造していることをご存じで、神戸から来たことを話すと大歓迎モードであった。
- 盲ろう者 B さん女性（触手話）：箱折り作業。県外からの入所。仕事をして出かける事の楽しさを話してくれた。

#### ☆障がい者支援施設 ライトホープセンター（朝日事業所）

- ・生活介護（障がい者程度区分 4～5） 生活訓練

1日の流れ：朝礼、1日のながれの説明、健康チェック、日中活動

生産活動：緩衝材制作、緩衝材段ボール折り、ラベルはり、ねじ

盲ろう者 C さん（触手話）・男性（全盲ろう、福井盲ろう者友の会会長）

盲ろう者 D さん・男性（触手話）（福井盲ろう者友の会副会長）

C さん、D さん、同室で生活しており、居室は自分たちで工夫をし、改装しているらしい。

職員に手話でスムーズに話ができる職員が移動となったためにとっても残念がっている。

仕事をし、報酬を得、全国盲ろう者大会で、なかまに会えることをとても楽しみにしているようである。食べ物に興味があるので、外出したときの外食をとっても楽しみにしているようであった。

同じ障がいの仲間と一緒に生活できる楽しさを話してくれた。

#### 課題：

障がい者支援施設に入所して 65 歳になると高齢支援の老人施設に移動が必要となる。市町にもよるが、現在の制度のなかでは施設間内での移動が難しくなっているのが現状。建物が古く、環境整備が十分でない。今後立て替えとなるが、入所者が新環境になじめるかの不安ありとスタッフ。

#### 考察：

同じ障がいをもつ仲間と一緒に生活している面で楽しそう生活をしている方もあるが、なかなかコミュニケーションがとれない方には、スタッフが配慮しているが、マンパワーの数が限られているため限界がある。自分一人のできる日中活動への支援するように心がけているところは素晴らしいを思った。

また、仕事をし、報酬をえることで、日常の生活の励みになり、余暇活動（旅行、買い物など）の楽しみにつながっているようであると感じられる。

盲重複障害者の専門施設として、「その人らしさ」を基本に、『働く』『学ぶ』『育む』を、大切にしている。（生活の基本である食事、入浴、余暇活動、また、作業、課題学習、リハビリ、音楽療法等）個人の持っている力を十分に引き出すよう支援している点は、とても参考になり、今後の支援のありかたを考えさせられる1日であった。

**書名：平成 29 年度盲ろう者の自立支援プログラム開発事業報告書**

**発行日：平成 30 年 3 月 31 日**

**編集・発行：特定非営利活動法人 兵庫盲ろう者友の会**

**〒650-0022**

**神戸市中央区元町通5丁目2番20号 2階**

**TEL/FAX 078-341-8822**

**電子メール：db-kobe@nifty.com**

**ホームページ：<http://hyogo-db.com/>**